

海外校外学習(修学旅行)の3か所への分散実施の取り組み

国際教育推進委員会 今野良祐・建元喜寿・工藤泰三

2年次会 平野延行・渋谷陽介・吉岡昌悟・田中友紀子

本校では平成8年度より国際教育の一環として海外への修学旅行(海外校外学習・2年次生対象)を実施してきたが、平成25年度より従来の160名全員が1か所に行くという形から、オーストラリア・インドネシア・台湾の3か所に分かれて実施する形に変更した。このことにより海外校外学習の活動内容の深化と生徒個々の主体的参加度の向上などをねらいとした。事前・事後アンケートの結果から、「異文化の理解および自国の文化の理解」などの各項目において、回答平均値の上昇がみられた。

キーワード：海外校外学習(修学旅行) 分散実施 国際交流 協働学習 自国理解

1. はじめに

本校では平成8年度より国際教育の一環として海外への修学旅行(2年次生対象)を実施してきた。行先は韓国(10~14年度)、オーストラリア(16~18、22~24年度)、台湾(19~21年度)で、総合的な学習の時間と連動させて異文化理解・日本文化紹介・外国語学習などの事前学習を経て現地に赴くことから「海外校外学習」と呼ぶことにしている。25年度実施の校外学習から従来の160名全員が1か所に行くという形から、オーストラリア・インドネシア・台湾の3か所に分かれて実施する形に変更した。本論ではその目的、実施までの経過、実際の活動の様子などについて述べるとともに、参加生徒を対象にしたアンケート調査の結果から、その成果と今後に向けての課題を明確にする。

2. 3か所分散実施のねらいと渡航先決定の経緯

国際教育においては生徒が海外の人々と直に接する機会を設けることは非常に重要な部分であるが、その一環として生徒を海外に派遣する場合、どうしても多額の予算が必要である。校外学習における生徒の海外渡航については生徒(保護者)から必要経費を払っていただいているが、その他の海外派遣については筑波大学附属学校教育局長裁量経費、あるいは外部団体からの助成金などに頼って実施している。校外学習を3か所に分散して実施する主なねらいの1つめは、これらの活動を、約160名の生徒を複数の渡航先に分散させたうえで校外学習とリンクさせて実施することにより、教育長裁量経費や外部資金への依存度を低め、また同時に校外学習の内容を深化させることにある。具体的な取り組みとしては、各グループでテーマ設定を行い、観光中心ではなく

現地校との交流および協働学習、国際教育やESDの視点に立った学習活動を中心に据えた行程を組むことが考えられる。これにより、これまでその日限りであった現地校との交流を長期間・相互の交友関係へと発展させられることが期待できる。

加えて、各グループの生徒人数を少なくすることにより、それぞれの活動に対する生徒一人一人の関わりが深まるのではないかと期待があった。多数の生徒が一団となって活動を行うと、中にはどうしても活動を人任せにしたり傍観したりする生徒が多く生じてしまう。海外渡航という絶好の学習機会を与えられている中で、より多くの生徒に主体的に活動に参加してほしいという強い願いがあったのである。

また、もうひとつの主なねらいとしては、多くの生徒が持つ「海外=欧米」という意識を崩すということがあった。もちろん日本と欧米の間には経済面・学術面・文化面など多様な分野において深い関係があるが、その反面、教員が生徒たちと海外諸国についての話をしていると、多くの生徒にはアジア諸国の人々に対する優越感があり、欧米に比べアジア諸国を軽視する傾向が強いという印象を持っていた。これまでも、そしてこれからも日本とアジア諸国とは切っても切れない深い関係があり、またその関係を平和的に持続・発展させる必要が高まっている今日において、アジア諸国にしっかりと目を向け、日本との関係をお互いにとってより良い形に高めていくべきであるという意識を若い世代に持たせることは、現代の学校教育における重要課題の一つである。

上記のねらいをまとめると、①国際教育のための経費の軽減、②海外校外学習の活動内容の深化、③生徒個々の主体的参加度の向上、④欧米志向からの脱却とアジア

諸国への意識の向上、となる。これらのねらいを達成するには校外学習の渡航先を分散させることは良案であるという意識は多くの教員が共有していたが、この案にはもちろんデメリットもある。主なものとしては次のようなものが挙げられる。

- 事前・事後学習を含め、3つの旅行を並行して企画・運営することとなり、一人一人の担当教員がこれまで以上に主体的に関わる必要がある。
- 全グループに管理職が同行することは不可能。
- 渡航先によって生徒（保護者）負担経費が異なる。
- 人数にばらつきが出た場合の対応（引率者の分担など）が必要。
- 現地の情勢によっては「A・Bグループは実施できるがCグループは実施できない」というケースもありうる。

しかしながら、これらのデメリットのほとんどは実施上の、すなわちマネジメントの問題である。状況に応じてうまく対応すればこれらのデメリットの多くは解消できると考え、校内の国際教育推進委員会（以下、CISと略記）¹は平成23年9月に校外学習の分散実施について職員会議での提案に踏み切った。その後、提案内容に2度の修正を加え、同年11月に職員会議で承認を得ることができた。

渡航先の決定に際しては、平成24年2～3月にこれまで本校と交流実績のある海外校に本校教員を派遣し各校教員と協議を行い、候補地としてインドネシア・台湾・タイの3か所を選定した。その理由は次の通りである。

- インドネシア：平成20年より本校と交流のあるボゴール農科大学附属コルニタ高校との協議により、現地での協働学習活動への協力について内諾を得ることができた。インドネシアにおいては急速な経済発展の陰で環境破壊も急速に進んでいるという実態、そしてその環境破壊には日本の経済活動が深く関わっていること、さらには急速な生活様式の変化による生活環境の悪化があり、これらをテーマにして共に学ぶことが期待できる。なお、本校とコルニタ高校とは平成23年3

月に姉妹校協定を結んでいる。

- 台湾：平成19～21年度に校外学習を実施した経験があることに加え、20年度の校外学習で交流を深めた新民高級中学とはその後も教員間では交流が続いており、現地での協働学習において協力をいただくことについて内諾を得ることができた。台湾は歴史的・文化的にも日本と深い関係にあるだけでなく、近年では芸能・サブカルチャーの分野でも関係がますます深くなっており、また日本と同様に大地震を経験してきた地域でもあることを考えても、協働学習のテーマには事欠かない。
- タイ：本校の国語科教員（かるた部顧問）がバンコク市内にあるワタナー・ウィタヤー・アカデミーの日本語教員（現地でかるた会を指導）と知り合いであったことを起点にし、ワタナー校から本校に短期留学生の受け入れの要請があり、平成21年10～11月に6名の短期留学生を3週間にわたり本校で受け入れた。その後も生徒間・教員間で交流が続いており、現地での協働学習についても協力をいただくことについて内諾を得ることができた。タイでは歴史的なつながり、仏教を含めた文化的なつながりとともに、近隣諸国と同様に多くの日本企業が進出していること、農産物・海産物を多く輸入していることなどに見られるように、日本とは深い関係にある。協働学習における学習内容も上記を含めさまざまなものが考えられる。

ただし、現行のオーストラリアにおいても豊かな自然を題材にした環境学習やアボリジニを中心とした文化学習や現地での英語学習の体験などが可能であること、また英語圏への渡航を希望する生徒が多かったこと、さらにはこれまでの経験からオーストラリアを支持する声が教員間にも多かったことなどから、オーストラリアも渡航先として残すことにした。

その結果、オーストラリアを含め4か所が候補地として挙げられたが、校内での協議においては4か所にするとう教員の事前学習や引率などの負担が過大になるという意見が多く、姉妹校を持つインドネシア、希望が多かったオーストラリアの2つを優先して渡航先に決定、もう1つについては現地での協議の後に早速内諾の連絡をいただいた新民高中のある台湾に決定した。なお、タイのワタナー校については他の行事で交流を続けている（本紀

¹ 同委員会の英語名 Committee of International Studies の略称のこと。同委員会の活動内容については本紀要 pp.53-58 を参照。

要 pp. 53-58 を参照)。

3. 海外校外学習実施までの経過

これまでの本校の校外学習の実施形態は、実際に引率する当該年次担任団の裁量で企画・実施していた。学校訪問・交流が行われたとしても、その日限りの交流で終わってしまうことが多かった。そこで、先述の3か所分散実施のねらいの実現と校外学習を本校の国際教育の柱として再度位置付けるため、CIS が企画に関与して当該年次担任団と連携を取りながら、継続的に計画・実施していく方式に変更した。それぞれの取り組みの経過をまとめたものが資料1である。

団体客の航空券の予約の関係から渡航の1年前に渡航人数の確定をしなければならないため、当該年次1年次11月末に渡航先を決定した。渡航先によって活動内容やかかる費用が大きく異なるため、2学期のLHR などを利用して各渡航先の概要説明や相談会を実施して、渡航先の第一希望のみを調査する形をとった。1年次の情報の授業の一環で、校外学習の費用計算や観光スポットなどの調査・発表を行っているので、ある程度現地のイメージを持った状態であると仮定して、各渡航先の概要説明前に希望調査をおこなったところ、オーストラリア106、インドネシア35、台湾19であった(2012年10月11日)。姉妹校のあるインドネシアを希望する生徒が予想以上に多く、その点は喜ばしい結果であったが、実際の渡航を考えると受け入れ側の許容人数の関係など様々な困難が予想されることから、その後の概要説明では多少厳しい面を強調して説明した。最終的な結果は、オーストラリア95、台湾55(留学のため実際の渡航は54名)、インドネシア10となった(2012年11月30日)。その後、インドネシアを選択した生徒・保護者向けに単独で説明会を行い、最終的な意思を確認した。

表1 校外学習渡航先希望の推移

	オーストラリア	台湾	インドネシア
2012/10/11	106	19	35
2012/11/30	95	55	10

2年次に進級し校外学習に向けて本格的に動き出す時期になるが、一部の総合的な学習の時間²の講座を除いて、校外学習の準備活動は主としてLHRの時間を活用して実施した。放課後に生徒の校外学習委員会で教員から説明し、翌日のLHRで生徒が各クラスで説明や情報の集

² 総合的な学習の時間の詳細は本紀要 pp.24-38 を参照。

約を行うようにし、教員の負担軽減と生徒の校外学習への主体的な参加を促すことを意図した。

旅行行程全般の手配等は旅行会社が行うが、インドネシアと台湾の現地交流のプログラムは学校同士で一から作り上げていくため、CIS 教員や当該年次の担任団で幾度となく現地に足を運んだり、メールやSkypeなどでの打ち合わせを重ねた。特に交流期間中のプログラムについては、各渡航先の特色を生かしたものにするため、時間をかけて双方で検討を重ねた。また、現地高校には交流期間中のホームステイの受け入れを依頼していたため、本校生徒の渡航人数、男女比、アレルギー等の健康情報などと受入家庭の情報(家族構成、趣味、宗教、ペットなど)を元にホームステイのマッチングを行った。

4. 各渡航先でのプログラム

(a) オーストラリア

日	月日	地名	スケジュール
1	12/3 (火)	成田空港発	成田空港にて搭乗手続き・出国手続き ジェットスター航空にてケアンズへ
2	12/4 (水)	ケアンズ着 ファームステイ	入国手続き後、ジャブカで朝食 ホストファミリーとマッチング 各生徒ファームステイ
3	12/5 (木)	ファームステイ	ファームステイ体験 ファミリーと共にファーム体験
4	12/6 (金)	ファームステイ ケアンズホテル	ホストファミリーと別荘ホテルへ グループ別自主研修、ホテル泊
5	12/7 (土)	ケアンズ ケアンズホテル	終日選択別オプションツアー ①キュランダ観光 ②グリーン島観光 ③トロピカルズ&アボリジニ文化 ④市内散策&ラグーンでの海水浴 市内レストランに集合、ホテル泊
6	12/8 (日)	ケアンズ空港発 成田空港着	ケアンズ空港着後、出国手続き 空路成田へ、入国・税関手続き・解散



(a)-1. ファームステイ

異文化体験のはじめとして、ファームステイを行う。生徒は友人関係を中心と食物アレルギーや動物アレルギーに関する情報をもとに4人～5人のグループに編成して、その資料を基に配属先を業者に依頼する。参加生徒が95名（男子44名、女子51名）であったので、全部で22グループ編成となった。

オーストラリアに到着後すぐにジャブカイレストランにてホストファミリーとのマッチングをして早速ファミリー宅へ向かった。私も教員にホストファミリーの情報は、詳細なものではなく概要だけのものではあった。そのため生徒の活動状況を確認する意味で全部ではないが一部の家庭を訪問し、あいさつ回りを行った。おおかたのファミリーは、生徒を大歓迎してくれている状況であった。今回のファームステイは、前年度までの反省を生かして2泊3日としている。これは、1泊2日ではせつかく慣れてきたのに別れなければならないことや意思疎通がとれてきたところで終わりとなってそれでは物足りなくなり、逆に3泊4日では期間的に長くなるだけでなく、生徒の方も生活面で我を出すようになりファミリーとどうしてもうまく生活できないという報告をもとに設定したものである。

残念ながら一部のグループで、教員からの説明と内容に差がありどうしてもファミリーを変更しなければならない状況があった。これに関しては、教員と業者との意思の疎通を事前にもっと図るべきであったと反省するところである。終わってみれば、それぞれのファームステイが生徒にとって初めに挙げた他国の異文化理解として大成功であったように感じる。慣れない英語を駆使して自分の意思を伝えることがどれほど大変であったか、また日常生活でちょっとしたことが日本と違うことに多くの生徒がそれぞれの感想を述べている。

(a)-2. 選択別オプションツアー

①キュランダ観光、②グリーン島観光、③トロピカルズ&ジャブカイアポリジニ文化体験、④ケアンズ市内自由散策、の4つのツアーを準備して生徒各自に選択させた。これらについては、事前にそれぞれの内容をしっかり伝えどのツアーを選ぶかは生徒自身であり責任を持って選択をさせた。生徒各自も事前に内容に関してしっかり調べていたようである。

日本にはないオーストラリアの自然や文化を肌で感じ取り自分の目で確認をすることは、体験学習において一番大切なことであり意義あることである。生徒の今まで

の生活経験の中ではじめてのものばかりであるため、大変有意義な活動ができたものと思う。

(b) 台湾

日	月日	地名	スケジュール
1	12/3 (火)	羽田空港発 台北松山空港着 台北ホテル	羽田空港にて搭乗手続き・出国手続き エバー航空直行便にて台北へ 台北市内観光へ 市内レストラン夕食、ホテル泊
2	12/4 (水)	台北 台中 新民高級中学 ホームステイ	高鐵台北駅 台湾高速鉄道で台中へ 高鐵台中駅到着後、新民高級中学へ 新民高級中学着、歓迎会及び授業参加 各生徒ホームステイ
3	12/5 (木)	新民高級中学 ホームステイ	交流及び共同学習 日本語授業参加、筑坂教員による授業 各生徒ホームステイ
4	12/6 (金)	新民高級中学 台北ホテル	共同学習成果発表会及び送別会 新民高級中学発 台北着、タイペイアイ観劇、ホテル泊
5	12/7 (土)	台北市内 台北ホテル	台北市内別自主研修 MRT 淡水駅集合、漁人碼頭散策 夕食後、ホテル泊
6	12/8 (日)	台北市内 台北松山空港発 羽田空港着	忠烈祠、故宮博物院見学、お土産店 台北松山空港着後、出国手続き 空路羽田へ、入国・税関手続き・解散



台湾の校外学習では台北市での自主研修活動、台中市にある新民高級中学校（以下、新民高校）での交流会及び協働学習、ホームステイを主な活動として実施した。分散型の校外学習により参加生徒が54名と少人数を生かし、ホームステイ、協働学習など新民高校での交流プログラムの充実化を図った。これらの活動により、台湾の生活文化、学校生活の共通点や相違点を体験から理解することを目指した。また、生徒の発案でしおりのPDF化にも取り組んだ。以下、新民高校での活動を報告する。

(b)-1. 新民高級中学校の授業体験

新民高校は、普通科の他に商業科、工業科、英語科、日本語科を設置しているため多様な科目を設置している。地理、英語、数学、国語、美術、音楽、ベッドメイキング、機械製図、商業概論、経済など様々な授業を日本語学科の生徒にサポートしてもらいながら参加する体験授業を実施した。また、日本語学科の授業では、台湾文化発表会を参観した。

親日で有名な台湾では、日本人はとても人気があり、本校の生徒を非常に好意的に受け入れていただけた。参加した講義形式の授業の多くは、パワーポイントでの授業が中心で教師が説明し、それを生徒が聞く形式の授業が多かった。実習形式の授業では新民の生徒が本校の生徒に実習のやり方を教え、それを本校の生徒が英語でなんとか応えている姿が非常に印象的であった。また、参観した日本語学科の生徒の発表は、どのガイドブックよりも詳しく且つ分かりやすい発表であった。多くの生徒が、日本語を流暢に話す新民高校の生徒に感心していた。

(b)-2. 筑坂プロジェクトワーク

日本語学科の生徒 150 名と本校の生徒 54 名を 3 クラス、自然班、人文班、社会班に分け、全 8 時間の協働学習を行った。最後に学習成果発表会を実施した。

自然班では、生物多様性、生態系などの基本知識を講義し、日本と台湾の外来種問題をテーマとして取り上げ、「外来種問題はなぜ問題なのか」、「台湾と日本で協力してできることはあるか」という課題を 12 人 1 グループで話し合い、プレゼンテーションをする活動を行った。

人文班では、台湾と日本の双方の共通の文化である「漢字」を題材に、繁体字（簡体字）・新字体（旧字体）をめぐる簡単な講義を行い、その上でどちらの字体を好ましいと思うのか率直な意見を述べてもらった。その上で双方の文化としての「漢字」（漢字を用いた風習やアート）を相互の生徒にプレゼンテーションをすることで理解を深めた。

社会班では、台湾と日本がどちらも災害大国であることから「防災」をテーマに取り上げた。自然現象である災害から私たちの“いのち”を守るための社会のあり方をディスカッションした。東日本大震災の報道は台湾でも大きく取り上げられており、生徒の関心が高い話題であった。被災地へボランティアに行った生徒の経験談や日本の緊急地震速報の紹介など多面的な議論が行われた。

図書館でいろいろと話し合い発表の準備をする生徒の姿に感心する場面は多かった。学習成果発表会では、新

民の生徒、本校の生徒が協力し、非常に楽しい発表会を実施することができた。しかし、話し合う時間よりパワーポイントの体裁にほとんどの時間を費やすグループが多く、発表内容は良く話し合われた内容ではなかった。課題内容の吟味や新民高校の生徒の実態把握、本校の生徒への事前学習などをもっと慎重に行うべきであった。

(b)-3. ホームステイ

新民高校在校生徒 45 世帯に協力していただき、全員参加の 2 泊 3 日のホームステイを実施することができた。全員の生徒がホストファミリーから熱烈な歓迎を受けた。夜市の散策やホームパーティなど様々な体験をさせて頂いた。実施後のふりかえりから、生徒は、日本とは違う生活を体験させて頂いたこと、とても優しい台湾の方のおもてなしが印象深かったようである。

新民高校は朝 7 時 15 分登校、1 限から 8 限まで授業があり、下校時刻は 18 時すぎである。生徒によっては通学時間が 1 時間を超す。今回のこの時程では、ホストファミリーと過ごす時間が短かったことが反省点として挙げられる。下校を早め、ホームステイの時間にももう少しゆとりがあると良かったのではないかと考える。

(c) インドネシア

日	月日	地名	スケジュール
1	12/19 (木)	成田空港 ホテル前泊	成田空港集合 集合後、ホテルバスで宿泊先へ
2	12/20 (金)	成田空港発 ジャカルタ着	全日空直行便にてジャカルタへ 市内レストランで夕食、ホテル泊
3	12/21 (土)	ジャカルタ ボゴール ホームステイ	朝食後、バスでコルニタ高校へ コルニタ高校着、交流及び共同学習 生徒ホームステイ
4	12/22 (日)	ボゴール ホームステイ	ボゴール市ゴミ最終処分場見学 生徒ホームステイ
5	12/23 (月)	ボゴール ホームステイ	タマンサファリ見学 グヌングデパンランゴ国立公園散策 生徒ホームステイ
6	12/24 (火)	ボゴール ジャカルタ ジャカルタ発	コルニタ高校を出発し、ジャカルタへ タマンミニ見学、昼食および振り返り パサラヤデパートでショッピング ジャカルタ国際空港着 直行便にて成田空港へ
7	12/25 (水)	成田空港着	空路成田へ、入国・税関手続き・解散



インドネシアでの活動は、ボゴール・コルニタ高校における文化交流会、廃棄物最終処分場および国立公園における環境学習、およびジャカルタ市内で起業されている日本人の方との交流をおもに行った。また、4泊3泊がホームステイであった。以下、それぞれのプログラムについて概要をまとめる。

(c)-1.ホームステイ

プログラム立案段階に、コルニタ高校のヘル校長から「ぜひ、3泊してください。そうすると、お客さんではなく家族になれます」とのことで、3泊お願いすることにした。本校との交流担当をしてくださっているディナ先生（日本語担当）を中心に、受け入れ家族を手配してくださり、13家族の受け入れ申し出があった。このため、当初は1家族2名の受け入れを考えていたが、1家族1名で実施することにした。生徒は、この決定に最初は戸惑っていたようであるが、結果的には全員が「一人で良かった。」と感想を述べてくれた。1泊ごとにインドネシアの家族と打ち解け、毎朝、学校に集合するたびに笑顔とインドネシア語のポキャブラリーが増えていく生徒たちが非常に素晴らしかった。

(c)-2.文化交流会

2日目に行った。この日は、コルニタ高校では学期末の保護者会が行われており、多くの保護者も参加して交流会は実施された。事前の打ち合わせの時間が十分ではなく、「交流」を中心に考えている生徒と、アジ隣から続く「協働学習」をイメージしている教員側の意識の違いもあり、来年以降の進め方には課題があるが、交流としては、本校の生徒が披露したAKB48の「フォーチュンクッキー」の踊りは、インドネシアでもかなり普及していて、コルニタ高校生も飛び入りで参加して大いに盛り上がった。平成26年度から本校はスーパーグローバルハイスクール（SGH）に指定されたが、SGHでは協働学習を、校外学習では交流中心で役割をわけて実施す

るとよいかもしれない。

(c)-3.環境学習

ボゴール市にある廃棄物処分場と、グヌングデパンランゴ国立公園で行った。処分場では、インドネシアにおける深刻なゴミ問題、国立公園では、熱帯林の保護について学んだ。残念なことに、渋滞の影響で国立公園では十分な時間が取れなかったのが悔やまれる。次回以降は、訪問先を絞ることも考慮したほうが良いかもしれない。

(c)-4.ジャカルタでの交流

帰国日に、ジャカルタで日本人の経営するレストランで昼食をとった。その際に、オーナーの方と交流した。インドネシアには約10,000人の在留邦人がいると言われている。この数は現在、増加している。国際的な視野とキャリア意識を生徒に持たせるうえで、海外で活躍している日本人と交流できたことは非常に有意義であった。

5. 事前・事後アンケートによる生徒の変容

校外学習渡航による生徒の変容を測るため、事前事後のアンケート（事前：12月1日、事後：1月10日）を実施した。なお、本アンケートは筑波大学附属学校教育局プロジェクト研究4「国際的資質を育てる」において計画・検討・実施されたもので今年度は研究2年目にあたる。本アンケートの質問項目の作成に当たっては、鈴木ほか（2000）を参考に「異文化の理解および自国の文化の理解」「コミュニケーション能力・外国語の能力」「問題解決能力」に加えて「海外・国際的交流への積極性」に関する質問項目を新設して、全49項目からなるアンケートを作成した。また、いくつかの逆転項目の設定を設けているが、集計時は逆転処理したうえで統計処理している。

ここではまず、平成25年度校外学習参加者へのアンケート全体の傾向を検討するとともに、3か所の渡航者別の集計も行った（資料2参照）。ただし、インドネシア渡航者が10名と他に比べて少なく、平均値の振れ幅が大きいことも留意しなければならない。

全体の傾向として、概ね事前アンケートより事後アンケートの結果のほうが、回答平均値が上回っている。また、昨年度実施したアンケート³と比較して、「異文化理解および自国文化理解」「他者と協働での問題解決能力」の項目において回答平均値の上昇がみられる。例えば「2. いろいろな国の人たちと知り合いになるのは楽しい」「3. 多くの外国人と友達になりたいと思う」の項目の上昇の

³詳細は竹内義晴ほか（2013）に集計表を掲載している。

要因として、ファームステイ・ホームステイ・学校を訪問しての協働学習などが考えられる。海外に訪問し、特に同年代の人々との交流が影響しているものと考えられる。また、ホームステイや協働学習での体験や苦勞から「40. 自分と意見や文化の背景が異なる人と協力できる」「42. 共通の問題を解決するためには、自分の意見が通らなくても納得できる」という項目の上昇も見られる。こうした中で「19. 異なる文化に触れることは、興味深い体験だと思う」「20. 各国に見られる独自の習慣を尊重したい」といった異文化接触を好意的にとらえている生徒が多くいる。外国の生活や文化に直接触れる経験を通して自分たちの居住している日本についてのまなざしにも大きな影響を与えているようであり、「11. 日本はすばらしい国だと思う」「12. 日本人であることを誇りに思う」「17. 日本の独特な習慣を大事にしたい」といった項目の上昇も顕著である。これらの点は、今回の校外学習がファームステイやホームステイ・協働学習など現地の人々との交流に重きを置いた成果とみてよいだろう。

一方で、今後の継続的な国際交流などに関連する「コミュニケーション能力・外国語の能力」「海外・国際的交流への積極性」の各項目において、昨年度のアンケートと比べると軒並み回答平均値が下回っている結果となった。今回の校外学習を一つのきっかけとして、積極的に国際交流や海外に目を向けてくれることを期待しているが、その点でこの結果は残念である。特に外国語の運用については苦手意識を持つ生徒は例年多くいるが、今回の回答者の結果では、「コミュニケーション能力・外国語の能力」の多くの項目で事前事後ともに昨年度と比べて平均値が1点近くも下回っている。同時に実施した記述回答においては、帰国後の外国語学習への意欲を示す回答が多くみられ、客観式アンケートの結果と矛盾する点が見られる。これらについては原因の究明を進め、別稿にて報告したい。語学力での不安や消極的な態度は、「海外・国際的交流への積極性」の回答平均値の低下にも影響を及ぼしている。ファームステイ・ホームステイ・学校交流・協働学習などで、現地の人々の温かさやおもてなしに触れ、「海外・国際的交流への積極性」について好感を示す記述回答での感想が多かったものの、同時に日本に対する好感や愛着を示すものが多く、結果的には海外渡航によって国際交流や外国語学習という要素よりも、自分の居住する日本や自分自身の在り方についての関心をもたらす方に強く働いたようだ。また、「43. 海外へ(また) 行きたい」および「49. 日本にいる外国人に話しかけやすくなった」の項目においては、渡航前は「3. どちら

ともいえない」に多くの回答が集まったが、渡航後は回答が分散し、特に「海外に行きたい」には5割以上が「5. あてはまる」に回答した。

6. おわりに

本論では、平成 25 年度実施の海外校外学習からオーストラリア・インドネシア・台湾の3 か所に分かれて実施する形に変更した目的、実施までの経過、実際の活動の様子などについてまとめ、参加生徒を対象にしたアンケート調査の結果の分析を行った。

先述の通り海外校外学習の3 か所分散実施のねらいを、①国際教育のための経費の軽減、②海外校外学習の活動内容の深化、③生徒個々の主体的参加度の向上、④欧米志向からの脱却とアジア諸国への意識の向上とした。①～③については、校外学習という予め学校行事に組み込まれた活動のなかに、ファームステイ・ホームステイ・学校交流など現地の人々との交流を組み込んだことで、学年すべての生徒に対する国際交流の機会の提供と生徒個人負担経費の削減など概ねこれらのねらいは達成された。ただし、3 か所に分散した結果、3 か所への下見や現地交流校との打ち合わせなど、学校の出張旅費の増加や引率教員の負担増加などの新たな課題がある。また、③、④についても交流本番の内容と事前学習のプロセスおよび帰国後の事後学習と生徒の意識・態度の定着については、当該年次や引率教員だけの指導ではなく教科学習・総合的な学習の時間・LHR など学校全体でフォローアップしていく必要がある。実働となる当該年次担任団と学校全体の国際教育を統括する CIS のさらなる連携が不可欠である。

【参考・引用文献】

- 後藤卷子ほか (2008) : 「平成 19 年度 2 年次台湾校外学習の取り組み : 相互交流・高大連携の実践と評価」、筑波大学附属坂戸高等学校 研究紀要第 45 集, pp.49-67.
- 筑波大学附属坂戸高等学校編 (2012) 『新時代の総合学科—総合学科パイオニアに学ぶ基本理念と新たな可能性』, p126.
- 工藤泰三ほか (2013) : 「平成 24 年度国際教育推進委員会活動報告」、筑波大学附属坂戸高等学校 研究紀要第 50 集, pp.57-62.
- 竹内義晴ほか (2013) : 「平成 24 年度「総合的な学習の時間」実践報告」、筑波大学附属坂戸高等学校 研究紀要第 50 集, pp.19-38.

【資料1】

CIS		当該年次担任団			
年月日	内容	年月日	内容		
平成22(2010)年度					
3月	ボゴール農科大学附属コルニタ高校と姉妹校提携				
平成23(2011)年度					
4月～11月	3か所分散実施の検討開始 職員会議にて3か所への分散実施提案・了承				
2～3月	タイ・台湾の交流校へ訪問し、校外学習時の受け入れ・交流の依頼				
平成24(2012)年度					
		4月	当該年次生徒入学		
7月	インドネシア 校外学習時の受け入れ相談 旅行者に3か所分散校外学習の企画・プレゼン依頼(5社)				
10月1日	旅行者による3か所分散校外学習の企画プレゼン(3社)、担当業者決定				
		1 年 次 生	10月6日	当該年次保護者会 3か所分散型校外学習実施の計画と各渡航先の概要、 予定費用概算などを説明	
			10月11日	分散型校外学習の概要説明(CIS委員長より)	
			10月18日	オーストラリア・インドネシアの概要説明	
			11月15日	台湾の概要説明、3か所の比較	
			11月22日	校外学習渡航先別相談会、渡航先決定	
			11月末	渡航先人数確定、航空券・ホテル等仮予約	
			12月1日	インドネシア希望者向け追加説明会	
3月	オーストラリア・台湾・インドネシア下見・交流校打ち合わせ	3月	オーストラリア・台湾・インドネシア下見・交流校打ち合わせ		
平成25(2013)年度					
		4月	総合的な学習の時間などにおける事前学習開始		
		6月	当該年次保護者会 (各渡航先活動内容、費用などについて説明)		
7月	新2年次(2014年実施分)、旅行者に3か所分散校外学習の企画・プレゼン依頼(5社)				
8月	インドネシア・コルニタ高校へ訪問 打ち合わせ	8月	(生徒)パスポート申請		
		9月	パスポートコピー提出、航空券予約へ		
		9月5日	校外学習講話「国際理解とは」(CIS委員長)		
9月7日	新2年次(2014年実施分)、旅行者による企画プレゼン(4社)、業者決定	9月	ホームステイ自己紹介シート提出		
9月22日	黎明祭(文化祭) インドネシアショップ				
		9月26日	講話「異文化理解について」(元・海外現地オペレーター)		
10月	台湾・新民高級中学へ訪問、最終打ち合わせ				
			オーストラリア	台湾	インドネシア
		10月2日	オプションルン アー選択	概要説明	概要説明
		10月10日	ホテル部屋割り	ホテル部屋割り 台北班別自主研 修計画	ホテル部屋割り 交流
		10月26日	当該年次保護者会 行程、旅行の準備、現地通貨両替などの最終案内		
10月～	高校生ESD国際シンポジウム参加に合わせてインドネシア・コルニタ高校から留学生来校(3名、1か月)	10月末～	しおり作成・編集		
10月～	台湾・新民高級中学生徒とSkype交流開始				
11月	インドネシア・コルニタ高校へ訪問 最終打ち合わせ	11月16日	しおり製本		
		11月21日	ゲストネイティブスピーカーによる英会話学習		
11月28日	旅行者と最終打ち合わせ	11月28日	旅行者と最終打ち合わせ		
12月2日	校外学習事前アンケート	12月2日	校外学習直前指導		
		12月3日～8日	校外学習	校外学習	自宅学習
		12月20日～25日	冬季休業		
					校外学習
1月8日	校外学習事後アンケート	1月8日	校外学習フォトエッセイ提出		
		1月11日	校外学習フォトエッセイ発表会		
		2月20日	総合学科研究大会にて代表者ポスター掲示		

分散実施型校外学習の事前・事後アンケート集計

筑波大学附属学校教育局 プロジェクト研究4「国際的資質を育てる」アンケート項目より

		Pre調査 (n=154)					Post調査 (n=154)				
	合計	SD	オーストラリア	台湾	インドネシア	合計	SD	オーストラリア	台湾	インドネシア	
(1)異文化理解および自国文化理解について											
R 1.	外国人とはあまり話をしたくない	2.40 ± 1.17	2.32	2.46	2.90	2.63 ± 1.17	2.58	2.69	2.80		
	2. いろいろな国の人たちと知り合いになるのは楽しい	3.86 ± 1.09	3.82	3.88	4.20	4.10 ± 1.01	4.09	4.22	3.60		
	3. 多くの外国人と友達になりたいと思う	3.82 ± 1.14	3.77	3.88	4.00	3.97 ± 1.02	4.00	4.00	3.60		
R 4.	出身国によって待遇に差があってもやむをえないと思う	2.03 ± 1.37	2.08	2.04	1.80	2.38 ± 1.38	2.33	2.29	3.20		
R 5.	貧しい国の人ならば、意見が軽視されることがあってもやむをえない	3.04 ± 1.03	2.08	2.04	1.60	3.27 ± 0.94	3.20	3.37	0.93		
	6. ある民族がほかの民族より劣っていると考えてはいけないと思う	3.92 ± 1.13	3.97	3.88	3.70	4.01 ± 1.13	3.89	4.29	3.60		
	7. 外国で起きたいくつかの歴史的事件について詳しく説明できる	2.01 ± 0.96	2.01	1.98	2.20	2.04 ± 1.00	1.98	2.04	1.20		
R 8.	世界の主な宗教の特色を説明できない	1.69 ± 1.17	1.72	1.63	1.70	1.54 ± 1.14	1.49	1.43	2.50		
	9. 外国で信仰されている宗教をいくつか挙げる事ができる	3.68 ± 1.04	3.62	3.67	4.30	3.86 ± 0.91	3.83	3.84	0.92		
	10. 日本の伝統的習慣を説明できる	3.45 ± 0.87	3.47	3.40	3.60	3.58 ± 0.92	3.56	3.55	0.92		
	11. 日本は素晴らしい国だと思う	4.14 ± 0.95	4.00	4.17	4.40	4.34 ± 0.86	4.29	4.41	0.87		
	12. 日本人であることを誇りに思う	4.01 ± 1.05	4.00	3.94	4.50	4.19 ± 0.91	4.19	4.14	0.92		
	13. 海外に行ったら、地元の人々の習慣に触れたいと思う	4.09 ± 0.80	4.16	0.8	4.20	4.15 ± 0.85	4.15	0.85	4.40		
R 14.	外国の伝統文化を紹介するような番組は見ない	2.39 ± 1.09	2.39	2.38	2.40	2.56 ± 1.08	2.55	2.57	2.60		
	15. 世界にどのような宗教があるか知りたい	2.84 ± 1.16	2.71	2.96	3.50	2.82 ± 1.17	2.70	2.88	3.70		
	16. 日本の独自の文化や歴史をもっと知りたい	3.45 ± 1.09	3.37	3.50	4.00	3.55 ± 1.05	3.52	3.49	4.10		
	17. 日本の独特な習慣を大事にしたい	3.99 ± 0.94	3.98	3.92	4.40	4.03 ± 0.96	4.04	3.90	4.50		
R 18.	外国の文化を理解したいとは思わない	3.06 ± 0.79	3.04	3.06	3.20	2.99 ± 0.95	3.00	2.88	3.50		
	19. 異なる文化に触れることは、興味深い体験だと思う	4.29 ± 0.80	4.20	4.37	4.70	4.35 ± 0.79	4.27	4.43	4.70		
	20. 各国に見られる独自の習慣を尊重したい	4.16 ± 0.84	4.14	4.13	4.50	4.28 ± 0.74	4.26	4.24	4.70		
(1)の回答平均値		3.32	3.25	3.26	3.48	3.43	3.40	3.44	3.72		
(1)の合計得点		66.34	64.91	65.27	69.60	68.62	67.92	68.76	74.40		
(2)コミュニケーション能力・外国語の能力について											
	21. 英語などの外国語で書かれた新聞や雑誌が読める	1.64 ± 0.92	1.61	1.71	1.60	1.81 ± 1.01	1.82	1.76	2.00		
	22. 自分の言いたいことを英語などの外国語で表現できる	1.99 ± 0.94	2.01	1.90	2.20	2.13 ± 1.05	2.10	2.10	2.60		
R 23.	外国人から英語で話しかけられたとき、答えることができない	1.39 ± 1.17	1.39	1.37	1.50	1.51 ± 1.12	1.58	1.39	1.10		
R 24.	外国語で書かれた新聞や雑誌に関心がない	1.90 ± 1.28	1.91	1.27	1.70	1.90 ± 1.30	1.87	1.98	1.80		
R 25.	今後、外国語検定(英検、TOEFL、TOEICなど)を受験しようとは思わない	2.08 ± 1.33	2.03	2.02	2.50	2.10 ± 1.28	2.14	2.20	2.20		
R 26.	今後、さまざまな国の言語を学ぶ気はない	2.23 ± 1.20	2.22	2.15	2.80	2.42 ± 1.22	2.41	2.27	3.20		
	27. 自分の意見をきちんと主張できる	3.05 ± 1.01	2.95	3.21	3.20	3.36 ± 1.08	3.22	3.51	4.00		
	28. 他人の意見を聞ける	3.81 ± 0.86	3.68	3.86	4.00	3.90 ± 0.81	3.87	3.92	4.10		
	29. 自分の考えと異なる人に対して、自分の意見を言える	3.45 ± 0.97	3.29	3.65	3.80	3.56 ± 0.98	3.44	3.75	3.80		
	30. 他人の意見と自分の意見との相違がわかる	3.73 ± 0.83	3.63	3.83	4.10	3.79 ± 0.90	3.75	3.84	3.90		
	31. 相手の気持ちを理解しようとする	4.05 ± 0.74	4.02	4.10	4.00	4.12 ± 0.77	4.14	4.10	4.00		
	32. 言葉以外の手段でも相手の気持ちがわかる	3.69 ± 0.83	3.71	3.69	3.80	3.78 ± 0.92	3.78	3.75	3.90		
(2)の回答平均値		2.75	2.70	2.80	2.92	2.87	2.84	2.86	3.08		
(2)の合計得点		330.1	324.6	336.2	350.0	343.8	341.2	343.7	369.0		
(3)他者と共同での問題解決能力について											
	33. 地球温暖化を防止するために、みんなで努力をしていきたい	3.98 ± 1.00	4.05	3.87	3.90	4.08 ± 0.80	4.12	3.96	4.30		
R 34.	世界平和の維持に関心がない	2.97 ± 1.00	3.02	2.85	3.10	3.01 ± 0.97	3.01	2.96	3.20		
	35. 廃棄物による土壌・水・大気汚染状況について知りたい	3.41 ± 1.37	3.55	3.06	3.90	3.95 ± 1.03	4.40	3.20	3.70		
	36. 自分の町をきれいにするために努力するのは大切だ	4.13 ± 0.77	4.19	4.06	4.50	4.23 ± 0.70	4.20	4.25	4.40		
	37. 世界の自然を守るために活動している機関を支援したい	3.64 ± 0.87	3.72	3.44	4.00	3.68 ± 0.85	3.67	3.67	3.90		
	38. 開発途上国の子どもたちが教育の機会に恵まれるよう支援していきたい	3.91 ± 0.83	3.93	3.87	3.90	3.92 ± 0.89	3.90	3.90	4.10		
	39. 困ったときに話し合って、アイデアを出そうと思う	3.77 ± 0.86	3.76	3.75	4.00	3.87 ± 0.79	3.90	3.73	4.30		
	40. 自分と意見や文化の背景が異なる人と協力できる	3.66 ± 0.75	3.64	3.67	3.80	3.72 ± 0.84	3.67	3.71	3.85		
	41. 困難に直面しても、人と協力して問題解決に取り組む	3.70 ± 0.84	3.73	3.67	3.60	3.87 ± 0.76	3.89	3.76	4.20		
	42. 共通の問題を解決するためには、自分の意見が通らなくても納得できる	3.71 ± 0.95	3.66	3.79	3.80	4.01 ± 0.82	3.96	4.04	4.40		
(3)の回答平均値		3.69	3.72	3.60	3.85	3.77	3.77	3.72	4.08		
(3)の合計得点		368.9	372.1	360.2	385.0	377.4	377.2	371.8	408.0		
(4)海外・国際的交流への積極性について											
	43. 海外へまた行きたい	3.36 ± 0.82	3.38	3.25	3.80	4.21 ± 1.19	4.22	4.14	4.50		
	44. 将来、結婚相手として日本人以外の国の人を選ぶことがある	2.59 ± 1.18	2.71	2.37	2.70	2.70 ± 1.26	2.77	2.55	2.80		
	45. 将来、同僚として外国人と仕事をしたい	3.16 ± 1.08	3.20	3.06	3.40	3.33 ± 1.11	3.33	3.27	3.60		
	46. 外国人は、自分の国に誇りを持っている	3.77 ± 0.81	3.70	3.81	4.20	4.05 ± 0.85	4.02	4.04	4.40		
	47. 英語以外の外国語を学びたい	3.35 ± 1.21	3.27	3.46	3.50	3.45 ± 1.27	3.46	3.31	4.10		
	48. 同年齢の外国人が話せる程度に自分も英語を話せるようになりたい	3.97 ± 1.02	3.99	3.96	3.90	3.94 ± 1.13	3.86	4.04	4.20		
	49. 海外経験をを経て、日本にいる外国人に話しかけやすくなった	3.01 ± 0.58	3.00	3.02	3.00	2.94 ± 1.18	3.01	2.76	3.20		
(4)の回答平均値		3.32	3.32	3.27	3.50	3.52	3.52	3.45	3.83		
(4)の合計得点		232.1	232.4	229.2	245.0	246.3	246.7	241.2	268.0		

注1)すべての項目の得点は1点(あてはまらない)~5点(あてはまる)
注2)Rは逆転項目。得点の計算時に逆転処理済(1→5、2→4…)